

真空テクノロジーで/
「つくる」をつくる、アルバック

第104期 事業報告書

2007.7.1 >> 2008.6.30

ULVAC REPORT

Interview with the President

社長インタビュー



環境の変化に
スピーディーに対応し、
新たなものづくりで利益率の
向上を目指します。

代表取締役社長 諏訪 秀則

Q 2008年6月期の経営環境と業績に対する評価をお聞かせください。

A 主力商品であるFPD（フラットパネルディスプレイ）の製造装置は、上期に市場が低迷したものの、下期に入って受注環境が急速に回復しました。その結果、当期における当社グループの売上高は過去最高を記録しましたが、FPDや太陽電池以外のいくつかのビジネスにおいて業績が悪化したこともあって、収益面では十分な結果を残すことができず、減益、減配を余儀なくされましたことは、大変遺憾に感じております。ただ、太陽電池ビジネスは急拡大を続けていますし、地道な「もの作り」も定着してきたので、2009年6月期は収益の回復を達成できる見通しです。

Q アルバックはいま太陽電池製造装置メーカーとして大きな注目を集めています。太陽電池市場の動向についてお教えてください。

A 地球規模でのCO₂削減要請に呼応して、ヨーロッパを中心に太陽電池に対するニーズが急伸しています。太陽電池を数キロ四方に設置した巨大な発電所を作るという動きがどんどん広まってきており、大量の太陽電池が必要になっています。

そこに太陽電池を供給するために、現在、中国や台湾、東南アジアなどに工場が盛んに建設されており、2010年ないし11年には太陽電池の設備投資額がFPDの設備投資額を上回り、1兆円規模の市場になると予測されています。

Q 拡大する太陽電池市場をアルバックはどのようにリードしていきますか。

A 結晶シリコンが不足していることと、大規模な発電所を作るために大量の太陽電池が必要となっていることから、

現在、シリコンの使用量が結晶系に比べて少なく済む薄膜系太陽電池に対するニーズが高まっています。

当社グループは、この薄膜系太陽電池の製造装置をターンキーの一貫ラインというかたちでお客様に提供しています。生産に必要なすべての設備を私どもで揃え、最終製品の太陽電池の生産量や発電能力も保証するソリューションとして供給しているわけです。

当社グループでは他にも、今後需要の高まりが予想される結晶系や化合物系などの研究を進めています。また、ターンキーソリューションの幅を広げ、太陽電池に関するあらゆるニーズに対応していきます。

Q 太陽電池ビジネスは従来のカスタムメイド型のビジネスモデルと異なり、標準化が進んでいると伺っています。

A 発電能力まで保証するために完璧な標準装置を完成させました。一般的に設備メーカーはお客様のリクエストを聞いて装置を作るため受動的なビジネスになりがちですが、太陽電池のターンキーソリューションは提案型ビジネスなのです。

装置は完全に標準化されていますので、当社独自で市場予測を行って生産計画を策定することができます。従来とは違ったもの作り、違ったビジネスモデルとして太陽電池以外のビジネスにもこのビジネスモデルを展開していき、事業構造の変革と収益力の向上に結びつけていく計画です。

Q 2008年6月期はポストFPDが一段と加速した年度のように見受けられます。

A 当期は環境ビジネスで大きな成果を上げることができました。希土類永久磁石の生産装置「マグライズ」は、希少金属ディスプロシウム(Dy)の使用量を従来より大幅に削減しま

した。世界で初めて実用化したカラーリフレクター用真空蒸着装置は、塗装方式と異なり有機溶剤を一切使いませんから環境負荷の低減に貢献します。さらにスパッタリングターゲット事業では、使用済みターゲットや防着板に付着したターゲット材料の回収・再利用を通じて省資源に寄与しています。

ポストFPDのひとつである成長地域への展開については、すでに確かな実績を上げている中国、台湾等に加え、ロシアに現地法人を設立していますし、インドにも支店を開設しています。今後、急速に産業が立ち上がったときに迅速な対応が取れるよう万全の態勢で臨んでいます。

Q 2009年6月期の事業方針をお聞かせください。

A アルバックらしい他社にないユニークさを持つと同時にコストダウンによって利益が確保できる、そうした両面を兼ね備えた競争力のある商品の開発を推進します。また、太陽電池をFPDに匹敵する事業の柱に育てていくとともに、電子機器や産業機器関係など、さらに次の柱を育成していくことも2009年6月期の重要な課題だと考えています。

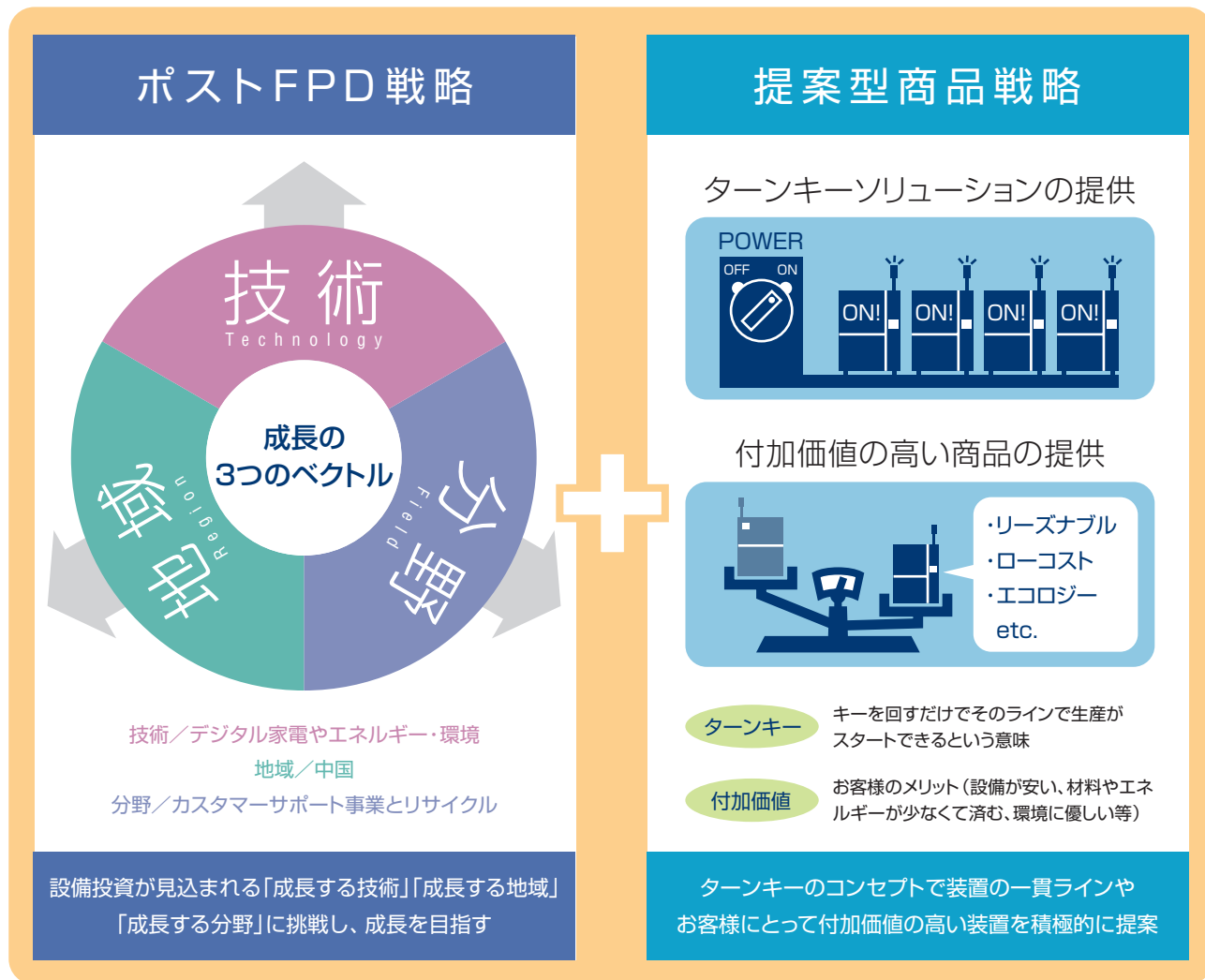
当社は各種経営指標の中でも特に経常利益率を重視しています。当期は経常利益が減少し減配を余儀なくされましたので、来期は経常利益率の向上を至上命題として収益構造の改善を進め、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと思います。



経営環境の大きな変化とアルバックへの影響



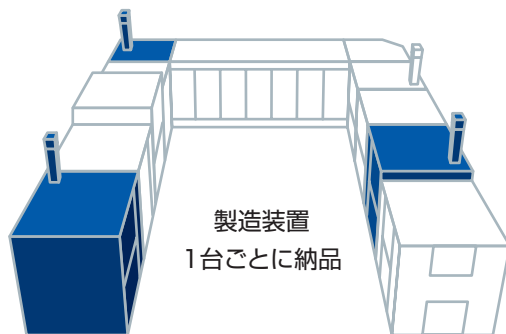
ポストFPDと提案型商品戦略で利益を確保



利益を確保するための提案型商品戦略

●ターンキーソリューションの提供とは？

before (いままで)



装置メーカー各社、各様の装置によって構成
「お客様はライン全体の立上げに時間がかかる」

after (これから)



アルバックが提供する一貫ラインで構成
「お客様はすぐに生産が開始できる」

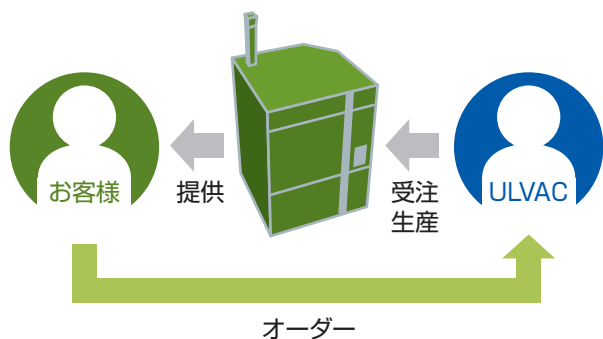
アルバックの太陽電池製造一貫ラインの実績



- 2007年 3月 台湾NexPowerTechnology社向け
薄膜太陽電池製造装置を一括受注
- 2007年 8月 台湾Sunner Solar社から
薄膜太陽電池製造装置を一括受注
- 2007年10月 China Solar Power社と薄膜太陽電池製造
装置で戦略的業務提携を締結
- 2007年11月 茅ヶ崎工場に太陽電池製造一貫ラインが完成
- 2008年 5月 台湾NexPowerTechnology社において、
初の一貫ラインが稼働

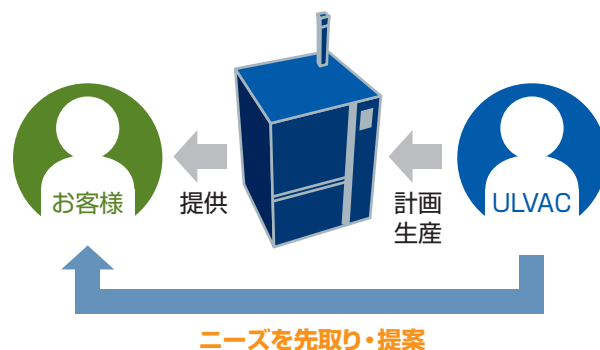
●付加価値の高い商品の提供とは？

before (いままで)



仕様、性能等お客様からのご要望
「カスタムメイド型商品」

after (これから)



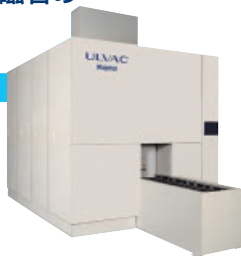
仕様、性能等アルバックが提案
「お客様にとってメリットが多い提案型商品」

アルバックの提案型商品の一例

世界最高グレードの希土類永久磁石の 大量生産装置「マグライズ」

お客様にとってのメリット

真空技術を応用した新製法によって必要なDy (ディスプロシウム) という金属の使用量が、従来の10分の1程度に減少。お客様のコストダウンにつながり環境にも優しいというメリットがあります。



カラーリフレクター用 真空蒸着装置

お客様にとってのメリット

従来のカラー塗装に代わって、真空中で反射膜、カラー膜、保護膜の形成がすべて可能に。カラー材料の組み合わせで様々なカラー膜の形成も可能になり、有機溶剤を一切使用しない環境に優しい工法です。



Year in Review

アルバックこの1年

2007.10

Business

「シグマテクノス(株)」の 新工場が稼働開始

2006年8月に子会社化した「シグマテクノス(株)」の新工場が埼玉県日高市に完成し、稼働を開始しました。また、本社機能も新社屋に移転しました。新工場は第8.5世代以上のガラス基板サイズに対応した大型FPD製造装置用グラナイトXYステージが同時に3台製造できることを最大の特徴としています。



2007.11

Technology

茅ヶ崎工場内に太陽電池製造一貫ライン が完成

アルバックは、茅ヶ崎工場内に太陽電池製造一貫ラインを完成させるとともに、資材調達、生産指導、メンテナンスサービスなどの付帯業務をトータルで提供できる体制を確立しました。太陽電池製造一貫ラインは、プラズマCVD装置、スパッタリング装置、レーザーパターニングなど、薄膜系太陽電池製造に関わる一連の装置で構成されています。



2007

10

11

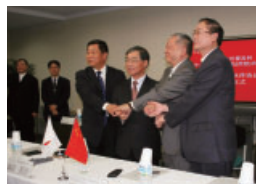
2008

1

2007.10

Business

「China Solar Power社」と 戦略的業務提携を締結



「China Solar Power社」(CSP社)とアルバックは提携して中国の太陽電池市場に参入することを決定しました。業務提携の目的は、アルバックの薄膜太陽電池製造ラインを世界的に普及させるとともに、

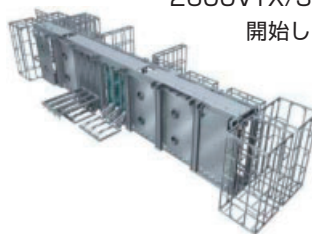
「CSP社」を中国の有力太陽電池メーカーに育てることです。アルバックが提供する製造ラインは、第5世代のガラス基板を使用するもので、中国で同サイズでの生産は初めてとなります。

2008.1

Technology

縦型インラインスパッタリング装置「SDP」の 新機種の販売を開始

第8.5世代以上のガラス基板に最適な新コンセプトを持つ次世代カラーフィルタ(CF)基板向けスパッタリング装置「SDP-2600VTX/3000VTX」を製品化し、販売を開始しました。同機種は大型化が急速に進行するCF用ITO成膜に対応した最新鋭の縦型インラインスパッタリング装置で、高生産性と安定したプロセスを実現しています。



2008.1

Business

「働きがいのある会社」のベスト10に選出

アルバックは「Great Place to Work® Institute Japan」が選定する第2回日本の「働きがいのある会社」の第10位に選ばれました。「Great Place to Work® Institute, Inc.」(本拠地：米国)はグローバルに活動する研究機関であり、1980年から働きがいのある職場作りの調査・研究を進めています。なお、表彰式は6月4日に東京で行われました。



3

2008.3

Technology

世界最高グレードの希土類永久磁石大量生産装置「マグライズ(Magrise)」の販売を開始

世界最高グレードの希土類永久磁石を生産できる装置「マグライズ(Magrise)」を開発し、販売を開始しました。今回アルバックが世界で初めて開発した技術は、Dy(ディスプロシウム)の金属蒸気を真空中で発生させ、Dy原子を結晶粒界に優先拡散させる応用技術で、国内外で約40件に及び関係特許出願を行いました。



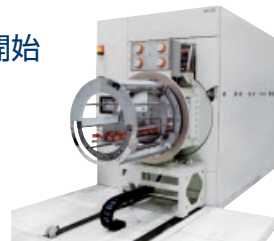
4

2008.4

Technology

カラーリフレクター用真空蒸着装置の販売を開始

自動車やバイク向けのリフレクター用途に使用できるカラーリフレクター用真空蒸着装置「EBH-800」を開発し、国内外市場で販売を開始しました。従来、自動車やバイク向けのリフレクター部品はカラー塗装により形成されていましたが、本装置ではすべて真空中で反射膜形成、カラー膜形成、保護膜形成を行うことが可能になっており、有機溶剤等を一切使用しない環境に優しい工法となっています。



5

2008.5

Technology

メタリック不導体成膜用スパッタリング装置の販売を開始

自動車や民生機器などに使用されるメタリック不導体(金属光沢を持つ電気的絶縁体)を成膜するスパッタリング装置の販売を開始しました。アルバックは、これまで同産業分野にカルーセル型スパッタリング装置SPVシリーズ等を販売してきましたが、今回、新たに成型樹脂基板上への不導体成膜用スパッタリング装置を開発し、製品ラインナップの拡充を図りました。



Operational Review

営業の概況

経営成績

当連結会計年度のわが国経済は、原油価格の高騰、所得の低迷に加え、物価上昇などにより個人消費は回復感に乏しい状態が続き、景気は減速の様相を呈してまいりました。また、世界経済においては、米国では、サブプライムローン問題に端を発した金融不安や資源価格の高騰による物価上昇などを背景に、景気低迷が顕著になってまいりました。中国をはじめとするアジア地域では、国内需要が拡大し引き続き堅調に推移いたしました。輸出環境の悪化などにより経済成長の減速の懸念がでてまいりました。

このような状況において、当社グループの主要なお客様であるFPD(フラットパネルディスプレイ)業界では、台湾、韓国を中心に設備投資計画の延期や凍結がありました。パネルの在庫調整が一巡し、設備投資も回復してまいりました。一方、半導体業界では、フラッシュメモリ関連を中心に活発な投資が行われましたが、半導体需給バランスの悪化に伴うメモリ価格の下落など調整局面をむかえ、先行きの不透明感が顕在化してまいりました。エネルギー・環境関連では、地球温暖化の原因とされるCO₂の排出量削減といった環境意識の高まりから、太陽電池やハイブリッド・カー関連に加え、発光ダイオード(LED)などの新たな「エネルギー・デバイス」の需要が拡大してまいりました。特に、クリーンエネルギーとして注目を集めている太陽電池市場が急速に拡大をいたしました。

当社グループは、このような経営環境に対処するため、独創的な新製品を競合他社に先駆けて市場に投入し、アルバックソリューションズの推進による積極的な受注活動を行ってまいりました。成長する地域である中国、韓国、台湾への投資を実施するだけでなく、当社の成長戦略である「ポ

ストFPD戦略」を見据えた日本国内での投資を引き続き行ってまいりました。また、「ポストFPD戦略」を実現するための新技術・新製品開発の投資を積極的に行ってまいりました。さらに、原材料価格の高騰に加え、お客様からの価格引き下げ要求が継続する中、生産改革の推進、グループ内垂直統合と内製化によるもの作りの推進などのコストダウンを図ることに加え、諸経費の削減を継続することで固定費の圧縮を進めてまいりました。

その結果、当連結会計年度の業績につきましては、受注高2,931億10百万円と前期と比べて563億41百万円(23.8%)増加し、売上高につきましては、2,412億12百万円と前期に比べて20億61百万円(0.9%)増加いたしました。当連結会計年度の損益につきましては、経常利益50億75百万円と前期に比べて110億29百万円(68.5%)減となり、当期純利益につきましては、36億10百万円と前期に比べ37億25百万円(50.8%)減となりました。

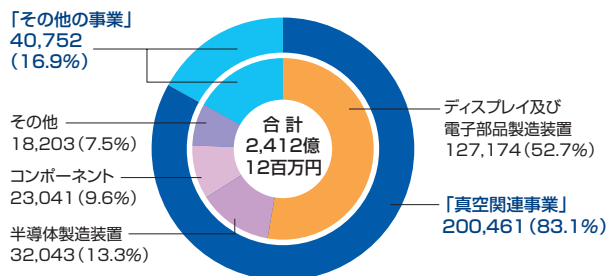
真空関連事業

真空関連事業を品目別にみますと下記のとおりです。

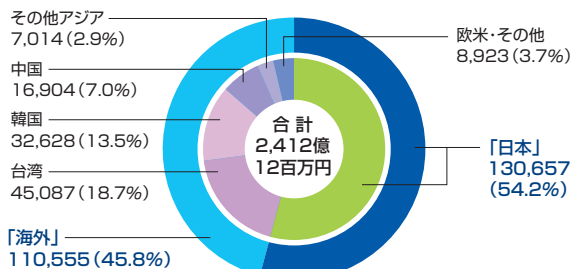
●ディスプレイ及び電子部品製造装置

主にアジア地域を中心に、中小型液晶ディスプレイや大画面液晶TV用の枚葉式スパッタリング装置「SMDシリーズ」やインライン式スパッタリング装置「SDPシリーズ」などの売上が堅調に推移いたしました。電子部品製造装置では、ハイブリッド・カー関連向けのパワー半導体用のスパッタリング装置「SRHシリーズ」などの売上が引き続き堅調に推移しました。また、受注につきましては、大画面液晶TV関連の設備投資計画が活発化し、

事業別売上高(単位:百万円)



地域別売上高(単位:百万円)



急回復したことに加え、アジア地域を中心に太陽電池の設備投資計画が急増し、薄膜太陽電池製造一貫ラインなどの受注や引き合いが急拡大してまいりました。

●半導体製造装置

デジタル家電関連では、当期前半は、携帯電話、携帯音楽プレイヤー、デジタルカメラなどに使用されるフラッシュメモリ、DRAMなどのメモリ関連の設備投資が積極的に行われましたが、当期後半より半導体需給の調整局面をむかえ、設備投資計画の一部延期などがありました。そのような環境の中、信頼性や生産性の向上を図ったスパッタリング装置「ENTRON™-EXシリーズ」やパッチタイプ自然酸化膜除去装置「RISEシリーズ」などの受注・売上がアジア地域を中心に堅調に推移いたしました。また、生産性を向上したLED用エッチング装置など新たなエネルギー・デバイス向け装置の受注・売上が堅調に推移しました。

●コンポーネント

主に当期前半ではFPD業界の設備投資計画延期などの影響により大型真空ポンプや表面形状測定装置などの受注が低迷いたしました。当期後半より液晶ディスプレイを中心とするFPD業界の設備投資計画の回復や太陽電池関連の設備投資計画が急速に活発化してまいりました。また、民生用小型真空ポンプ関連は、低調に推移いたしました。一般産業分野における真空ポンプや計測器(真空計、ヘリウムリークディテクタ)、太陽電池製造装置向けの真空ポンプは受注・売上也に堅調に推移しました。

●その他

主に一般産業機器関連では、新製品を市場投入するなど、積極的に拡販活動を行うとともに、自動車業界向けの真空熱処理炉「FHHシリーズ」、真

空溶解炉「FMIシリーズ」や真空蒸着装置、医薬品向けの真空凍結乾燥装置「DFシリーズ」の売上がありましたが、設備投資計画延期などの影響を受け厳しい状況のまま推移しました。

その結果、真空関連事業の受注高につきましては、2,520億19百万円、受注残高1,625億48百万円、売上高につきましては、2,004億61百万円となりました。また、営業利益につきましては、83億77百万円となりました。

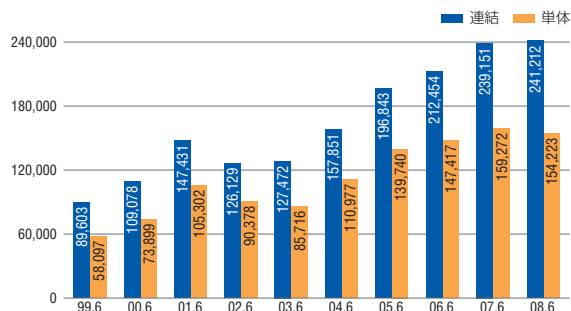
その他の事業

その他の事業につきましては、アルバックソリューションズを生かしたグループ体の積極的な拡販活動を行いました。材料ビジネス関連では、アジア向け液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料において、当初計画の受注・売上を達成することができませんでした。また、制御関連では、金属業界や自動車業界において、制御システムの受注が堅調に推移しましたが、全体としては設備投資計画延期などにより厳しい状況が続きました。分析機器関連では、欧米を中心にX線光電子分光分析装置「PHI5000 VersaProbe™」の受注・売上が堅調でした。

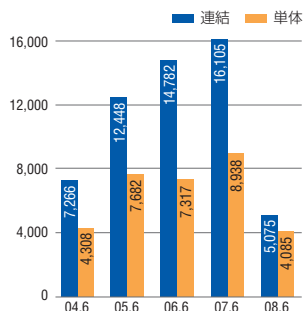
その結果、受注高につきましては、410億91百万円、受注残高84億95百万円、売上高につきましては、407億52百万円となりました。しかし、材料ビジネス関連においては、売上減と販売価格下落にコストダウンが追いつかなかったことなどにより収益が圧迫され、1億35百万円の営業損失となりました。

なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。

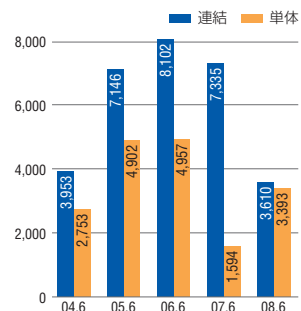
売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



当期純利益(単位:百万円)



Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 2008年6月30日現在	前連結会計年度 2007年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産		186,578	207,876
現金及び預金		17,603	11,889
受取手形及び売掛金		76,193	87,399
たな卸資産		81,728	96,561
繰延税金資産		4,711	4,723
その他		6,517	7,558
貸倒引当金		△175	△253
固定資産		116,491	109,701
有形固定資産		93,799	81,822
建物及び構築物		42,138	38,308
機械装置及び運搬具		27,341	21,068
その他		24,320	22,446
無形固定資産		3,838	3,811
投資その他の資産		18,853	24,068
投資有価証券		7,963	15,555
繰延税金資産		5,968	4,338
その他		4,923	4,173
資産合計		303,069	317,577

(単位：百万円)

科目	期別	当連結会計年度 2008年6月30日現在	前連結会計年度 2007年6月30日現在
(負債の部)			
流動負債		150,771	169,467
支払手形及び買掛金		63,873	72,099
短期借入金		36,588	33,715
その他		50,309	63,653
固定負債		60,445	53,745
社債		200	200
新株予約権付社債		15,500	15,500
長期借入金		28,415	24,926
繰延税金負債		2	1
その他		16,328	13,118
負債合計		211,216	223,212
(純資産の部)			
株主資本		87,477	86,111
評価・換算差額等		567	4,208
少数株主持分		3,810	4,047
純資産合計		91,853	94,365
負債及び純資産合計		303,069	317,577

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度	前連結会計年度
		2007年7月1日から 2008年6月30日まで	2006年7月1日から 2007年6月30日まで
売上高		241,212	239,151
売上原価		195,092	192,700
売上総利益		46,120	46,451
販売費及び一般管理費		37,040	29,826
営業利益		9,081	16,625
営業外収益		1,565	3,162
営業外費用		5,571	3,683
経常利益		5,075	16,105
特別利益		3,115	402
特別損失		1,740	2,880
税金等調整前当期純利益		6,451	13,627
法人税、住民税及び事業税		4,177	7,307
法人税等調整額		△1,225	△1,148
少数株主利益		△112	133
当期純利益		3,610	7,335

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当連結会計年度	前連結会計年度
		2007年7月1日から 2008年6月30日まで	2006年7月1日から 2007年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー		32,068	1,131
投資活動による キャッシュ・フロー		△25,944	△26,850
財務活動による キャッシュ・フロー		△1,750	23,738
現金及び現金同等物に 係る換算差額		△526	658
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)		3,849	△1,322
現金及び現金同等物の 期首残高		11,664	10,515
新規連結による現金及び 現金同等物の期首残高		1,464	2,472
現金及び現金同等物の 期末残高		16,977	11,664

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2007年7月1日から2008年6月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2007年6月30日 残高	13,468	14,695	57,955	△7	86,111	1,461	2,747	4,208	4,047	94,365
連結会計年度中の変動額										
連結子会社増加に伴う増加高			△226		△226					△226
剰余金の配当			△2,016		△2,016					△2,016
当期純利益			3,610		3,610					3,610
自己株式の取得				△2	△2					△2
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)						△812	△2,829	△3,641	△237	△3,878
連結会計年度中の変動額合計	-	-	1,368	△2	1,366	△812	△2,829	△3,641	△237	△2,512
2008年6月30日 残高	13,468	14,695	59,323	△10	87,477	648	△82	567	3,810	91,853

Non-Consolidated Financial Statements

単体財務諸表

単体貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当事業年度	前事業年度
		2008年6月30日現在	2007年6月30日現在
(資産の部)			
流動資産		119,626	132,455
固定資産		95,244	85,235
有形固定資産		62,300	54,537
無形固定資産		2,650	2,693
投資その他の資産		30,294	28,005
資産合計		214,870	217,691
(負債の部)			
流動負債		107,626	116,246
固定負債		47,234	42,058
新株予約権付社債		15,500	15,500
長期借入金		24,904	21,011
退職給付引当金		5,500	4,915
その他		1,330	632
負債合計		154,860	158,304
(純資産の部)			
株主資本		59,391	58,017
評価・換算差額等		618	1,370
純資産合計		60,009	59,387
負債及び純資産合計		214,870	217,691

単体損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当事業年度	前事業年度
		2007年7月1日から 2008年6月30日まで	2006年7月1日から 2007年6月30日まで
売上高		154,223	159,272
売上原価		131,872	138,706
売上総利益		22,351	20,566
販売費及び一般管理費		21,587	15,718
営業利益		764	4,848
営業外収益		6,774	6,354
営業外費用		3,453	2,263
経常利益		4,085	8,938
特別利益		2,066	137
特別損失		1,709	5,274
税引前当期純利益		4,442	3,802
法人税、住民税及び事業税		1,859	2,938
法人税等調整額		△810	△731
当期純利益		3,393	1,594

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

単体株主資本等変動計算書 当事業年度(2007年7月1日から2008年6月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本										評価・換算差額等		純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計		
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金								
2007年6月30日 残高	13,468	14,695	14,695	529	353	24,206	4,772	29,860	△5	58,017	1,370	1,370	59,387
事業年度中の変動額													
剰余金の配当							△2,016	△2,016		△2,016			△2,016
固定資産圧縮積立金の積立													
固定資産圧縮積立金の取崩					△26		26						
別途積立金の積立													
当期純利益							3,393	3,393		3,393			3,393
自己株式の取得									△2	△2			△2
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)											△751	△751	△751
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	△26	-	1,402	1,376	△2	1,374	△751	△751	622
2008年6月30日 残高	13,468	14,695	14,695	529	327	24,206	6,174	31,236	△8	59,391	618	618	60,009

会社概要 2008年6月30日現在

商号 株式会社アルバック
ULVAC, Inc.
商標 ULVAC
本社 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立 1952年8月23日
資本金 13,467,797,500円
従業員数 1,801名(連結6,356名)

役員 2008年9月29日現在

代表取締役会長 中村 久三
代表取締役社長 諏訪 秀則
専務取締役 山川 洋幸
専務取締役 常見 佳弘
専務取締役 砂賀 芳雄
取締役 藤山 潤樹
取締役 加藤 丈夫
取締役 佐藤 孔史
取締役 本吉 光
取締役 五戸 成史
取締役 末代 政輔
取締役 小田木秀幸
取締役 平野 裕之
取締役 山元 正年
取締役 中村 孝男
取締役(非常勤) 宇治原 潔
取締役(非常勤) 中野 佳信
監査役 大井 宣夫
監査役 待鳥 啓信
監査役(非常勤) 原 稔
監査役(非常勤) 浅田 千秋
監査役(非常勤) 小宮路幸一

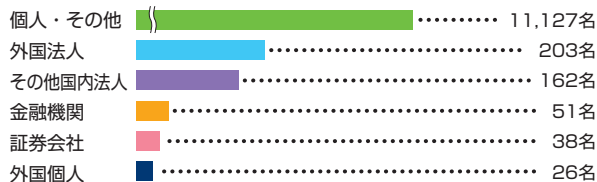
株式の状況 2008年6月30日現在

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式の総数 42,905,938株
株主数 11,608名

大株主

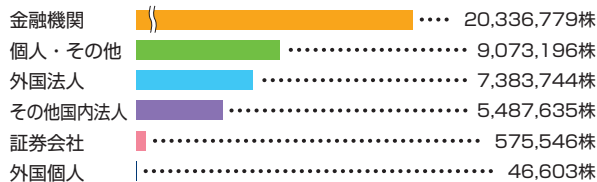
株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	当社への出資状況 議決権比率(%)
日本生命保険相互会社	3,602	8.40
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,455	8.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,596	6.05
株式会社三井住友銀行	1,864	4.35
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,820	4.24
株式会社みずほ銀行	1,604	3.74
アルバック持株会	1,160	2.70
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,023	2.38
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	1,002	2.34
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	866	2.02

所有者別株主数 合計：11,608名



自己名義株式：1名

所有者別株式数 合計：42,905,938株



自己名義株式：2,435株

株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	6月30日（臨時に必要あるときは予め公告した日）
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
お問い合わせ先	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部（証券代行事務センター） TEL.0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店、全国各支店
公告方法	日本経済新聞

HPのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

URL

<http://www.ulvac.co.jp/>



株式会社アルバック

本社／工場

〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500

TEL. 0467-89-2033

東京事務所

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-3-1

TEL. 03-5218-5700

